

大和合金 航空機用の銅合金素材 水平リサイクル目指す

銅合金の鍛造品・鍛造品メーカーの大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏)は、早ければ2024年にも航空機用銅合金素材の水平リサイクルを目指す。銅合金製航空機部品を製造する際に出る切粉や使用済み部品を原料として使い、再び航空機用銅合金素材を製造したい考えだ。環境などの面で顧客メリットを創出することが狙い。萩野

社長は「まずは国内で成功事例をつくりたい」と話す。

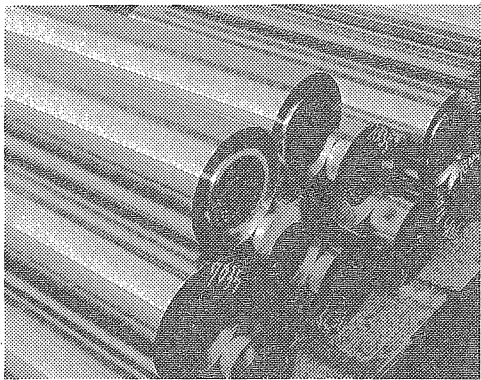
同社では航空機関連の銅合金素材を戦略分野として位置付けてお

り、筒状の鍛造品・押出品などの拡販に注力している。水平リサイ

クルは環境などの面で顧客メリットを創出し、競争力を高めるた

めの取り組みの一環。現在は顧客である加工メーカーや航空機整備会社に水平リサイクルのモデルを提案している段階で、賛同を得られていると

いう。今後はメッキ加工されたものを材料として用いる際の影響や輸送コストについて検証していく考えだ。同社は航空機用銅合金素材をグローバルに拡販しており、将来的には海外での水平リサイクルも視野に入れる。



注力分野に位置付けている航空機用銅合金素材

航空機用素材は部品

に切削加工する際に切粉になる部分が多い。

切粉や使用済み部品は同社が再溶解することで合金成分すべてをリサイクルできることから、航空機関連のサプライチェーン全体の低炭素化に寄与できる。

また素材製造時に成分調整を効率化でき、新地金原料の使用量を減らせるため同社としての環境貢献にもつながる。